

火災予防編



火災からわが家を守ろう

最近の火災の傾向

●お年寄りの焼死事故が多発！

事業所などを含めた建物の火災で亡くなられた人のほとんどは住宅の火災です。そのうち、65歳以上のお年寄りが約半数を占め、他の年齢層と比較して極めて高い割合となっています。

21世紀の初めには4人に1人が65歳以上のお年寄りといわれ、火災の犠牲者が増えることがとても心配されます。



●火災の原因は放火がNo.1！

都市型社会においては、「放火」及び「放火の疑い」のある火災が多く、本市では全火災件数の三分の一を占めています。

不用意に放置されている新聞紙やゴミ袋などのほか、空家や車などが狙われています。

地域ぐるみでの「放火されない環境づくり」が望まれます。



[狙われるのは深夜から早朝にかけて多い!]

●家庭内では油、ガス、電気に注意！

火気使用器具や電化製品などは安全性が高められていますが、天ぷらなどの揚げものの中にその場を離れたり、石油ストーブを消さずに給油するなど、不注意や取り扱いの誤りによる火災は一向に減りません。

また、ガスボンベや高電圧部・高熱部のある電化製品の火災の危険性も無視できません。



火災の元を絶つ

●タバコ

タバコはこんなとき危ない！

- 寝タバコをしている時についとうとうと寝いる。特に酒に酔ったタバコは危険。
- くすぶった小さな火でも一酸化炭素中毒の恐れがある。
- 子供が親に隠れて「タバコ」を吸っている。
- もみ消しただけの吸いがらを屑かごへ捨てる。
- ガラス製の灰皿を吸い殻で一杯にする。



●天ぷら油

揚げもの中、万一炎が上がったら

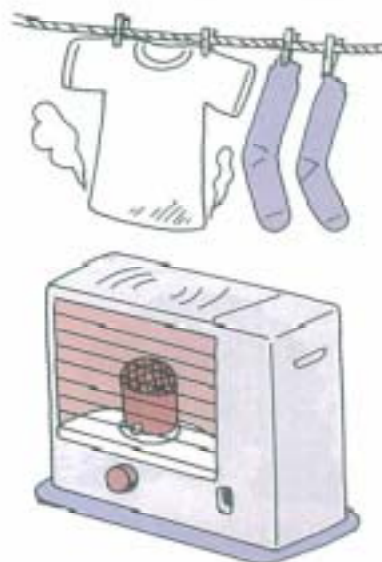
- 消火器やエアゾール式簡易消火用具で消火する。
- 消火器具がなければ、濡らしたシーツやタオル（必ず絞る。）を覆いかぶせるなどして消火する。
- 調理器具のつまみを閉める。
- 水は絶対にかけない。
（コップ一杯の水でも炎は1.5メートルもの高さに上がり、火のついた油が飛び散ります。）



●ストーブ

ストーブはこんなところに注意！

- 必ず耐震自動消火装置付きのものを使う。
- 石油ストーブに給油するときは必ず火を消す。
- ストーブの上やまわりに可燃物を近づけない。
- 間違った取扱い方をしない。（取扱い説明書をよく読む。）
- 室内の換気に気をつけ、一酸化炭素中毒に注意する。



火災の元を絶つ

●火遊び

火遊びは大人の責任です。

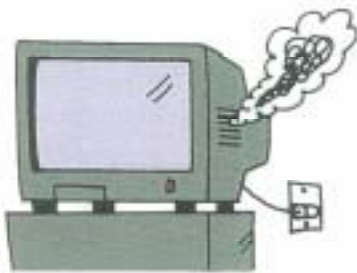
- マッチ、ライターを子供の目の届かないところにしまう。
- 小さい子供たちだけを残して外出しない。
- 子供が親に隠れて「タバコ」を吸っている。
- 子供に火の恐ろしさを教え、子供だけでは火を使わせない。



●コンロ



こんなところにも火災の危険が



■テレビから火を吹いた。

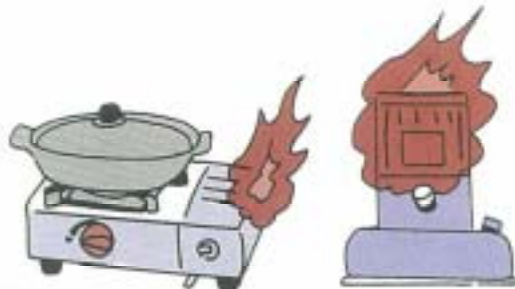


■ヘアードライヤーで洗濯物を乾かしていたら火を吹いた。



■ストーブの火がスプレースターのガスに引火した。

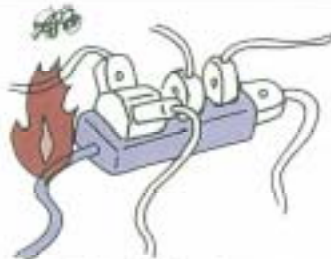
■カセット式コンロを使用中、ボンベから火が吹き出した。



■石油ストーブの間違ってガソリンを入れた。
※灯油は無色透明です。



■車から漏れた油をライターの明かりで確認した。



■配線が燃え出した。



■仏壇のろうそくが倒れた。

万一火災がおきたら

自分一人でも何もかもやろうとせず、まず、「火事だー!」と大きな声で叫び、近くにいる人に知らせることが大切です。マンションやアパートでは、非常ベルを鳴らしてください。



119番通報や家族の避難などまわりの人に依頼すれば、ひとりの負担が小さくなり効果的な活動ができます。

消火は、早いほど効果的です。消火器や消火バケツなどの消火用具を使えば一層効果的ですが、消火用具がない場合は近くにある水をかけたり、分厚い服で火をたたいたり、毛布で火を覆って窒息させるなど身近な物を何でも活用してください。



火が天井まで燃え広がったら初期消火は困難ですから、安全な方法で避難してください。



煙の速さ

- 上方向に秒速約3~5m
- 横方向に秒速約0.5~1m
(人の歩く速さとほぼ同じ)

消火器の使い方

粉末消火器

1 安全性をひき抜く



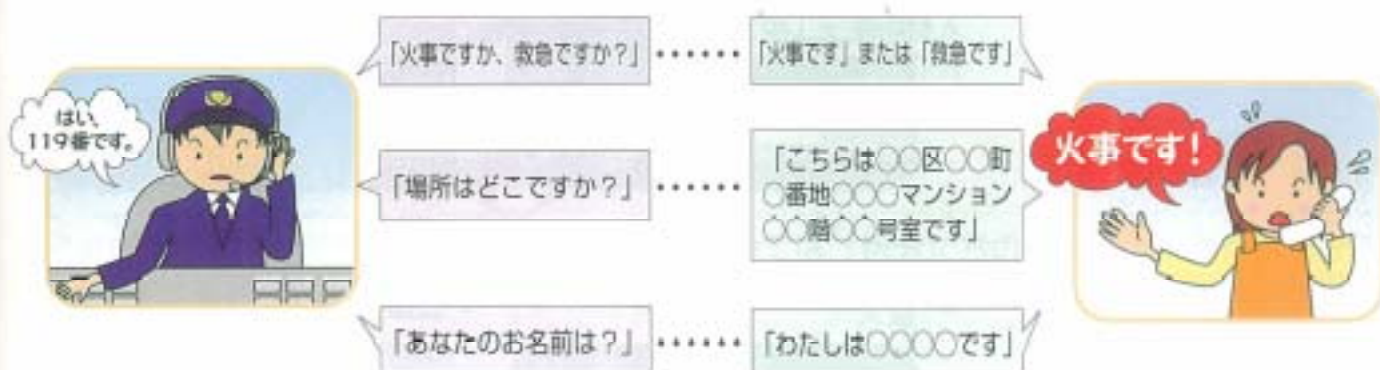
2 ホースをはずし、ノズルを火元に向ける



3 レバーを強く握る



119番通報要領 (局番なしの119番)



■119番通報は、慌てず落ち着いて通報することが大切です。

119番通報は、スムーズに伝えることにより火災の被害を小さくすることができます。

■慌てず119番通報ができるように電話機の周りに住所などをかいたメモを貼っておきましょう。

※携帯電話からの119番通報は、必ず市町村名から伝えてください。

放火対策

過去の放火火災事例

乗用車の火災事例

午前3時ごろ発生

屋外駐車場に駐車されていた乗用車に放火

乗用車一部焼損



マンションの火災事例

午前5時ごろ発生

マンションのエレベーターホールに侵入し、朝各戸に配達するために置いてあった新聞に放火

配達用の新聞が一部焼損



住宅の火災事例

午後11時ごろ発生

住宅の裏にある施錠されていない物置に侵入し、物置の内部に放火

物置が全焼し、物置と隣接していた住宅が半焼



倉庫の火災事例

午後7時ごろ発生

施錠されていない倉庫に侵入し、放火

倉庫全焼



あなたの家庭や町を放火火災から守るために

放火火災は、たばこによる火災やコンロによる火災など、人のちょっとした不注意から起きる失火とは異なり、人が火をつけるという意志を持って発生する火災です。

この放火火災を防止するために次の対策を実施しましょう。

8つの放火対策

| | | | |
|--|---|---|---|
| <p>1 家の周囲、共用部の廊下及び階段に燃えやすい物を置かない。</p> |  | <p>2 ゴミは収集日の朝に出す。</p> |  |
| <p>3 屋外灯を点灯する。</p> |  | <p>4 物置、車庫には必ず鍵をかける。</p> |  |
| <p>5 新聞・洗濯物の取り忘れをしない。</p> |  | <p>6 車のボディカバーは、防災製品にする。</p> |  |
| <p>7 路上駐車をしない。</p> |  | <p>8 空地、空家の侵入防止と枯草を除去する。</p> |  |

火災予防編

この8つの放火対策を各家庭で行い、地域においては「自分たちのまちは、自分たちで守る」という意識をもって、地域ぐるみで「放火されない環境づくり」に努めることが放火対策の重要なポイントです。

| | | | |
|----------------------------|---|--|--|
| <p>住宅用 防災機器</p> | <p>消火器 住宅での火災に適した消火器で、簡単に使えます。</p>  | <p>炎感知器 (屋外用) 炎を感知し音声で知らせます。</p>  | <p>センサー付 ライト 夜間、人の動き(侵入)を検知して点灯します。</p>  |
|----------------------------|---|--|--|

町が危ない さあ、みんなで放火犯に立ち向かおう。

放火火災は、深夜に発生し、人気のないところをねらいます。すなわち、発見するのが遅れ、大規模な火災に発展することが多いのが傾向です。逃げ遅れるのは高齢者等の災害弱者です。憎むべき犯罪であり、ほうっておくことはできません。

**“狙われるのは、深夜から
早朝にかけて!”**



放火パトロールの活動

放火火災予防には最も効果的です。
地域が目を光らせていること事態、放火犯には恐怖を与えるはずです。
パトロールを実施することにより、住民にも啓発できます。なるべく多勢で計画的にパトロールを実施すれば、さらに効果的です。



地域ぐるみで放火されない環境づくり

放火されそうな場所のチェック



明るくする

